



2020年度 環境経営レポート

(2020.4.1～2021.3.31)

システムニコル(株)
<https://www.nicol.co.jp>

目次

- 会社概要
- 環境経営方針
- 環境経営推進体制
- 環境経営目標と実績
- 環境負荷の状況
- 環境負荷測定法
- 環境取組の評価
- 環境関連法規
- 代表者による評価と見直し

システムニ科尔株式会社

オフィス<人数>	所在地
本社<40名>	〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-39-3 三石ヨコハマビル3F 最寄り駅:横浜駅東口より徒歩8分
沼津支所<7名>	〒410-0396 静岡県沼津市宮本140 富士通沼津工場B棟5F
仙台支所<21名>	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町3-3-5 仙台青葉通ビル3F

本社フロア床面積 : 184.80㎡ (2021年4月以降はフロア
変更のため、床面積変更あり)

沼津支所フロア床面積 : 52.80㎡

仙台支所フロア床面積 : 128.83㎡

会社概要

会社概要

創立	1973年5月
代表取締役	浅見 秀一
	花園 泰
資本金	8,000万円
売上高	450百万円
従業員総数	69名(2021年4月現在)
活動概要	以下のソフトウェア開発 ・通信系ソフト開発 ・組み込み系ソフト開発 ・Webアプリケーション開発 ・Windowsアプリケーション開発
設備概要	パソコン, コピー機, Web会議システム ※社用車等の車両は保有しておりません

- ◇ 対象範囲 全社(本社, 仙台支所, 沼津支所)
全活動(ソフトウェア開発)

◆組織沿革

- 1973年 5月 川崎市に設立
- 1983年12月 沼津支所を開設
- 1987年 7月 資本金6,400万円に増資
- 1991年10月 仙台支所を開設
- 1996年 6月 本社を川崎市より横浜市へ移転
社名をシステム日本(株)よりシステムニコル(株)へ変更
- 2006年 6月 エコアクション21認証取得
- 2007年 1月 仙台支所を仙台青葉通ビルへ移転
- 2007年 3月 沼津支所を富士通沼津工場内へ移転
- 2007年 7月 資本金8,000万円に増資

→現在に至る

◆基本理念

当社は「社会貢献」を企業理念に持つ企業として、環境関連法規、条例、地域の指導・指針を率先して守り、環境に配慮した事業活動を推進します。

また、人の集団であるIT企業として、社員一人ひとりの環境に対する意識向上を図り、労働環境に配慮し、健康経営を推進します。

キーワード:SDGsとプラス志向

環境経営方針

◆基本方針

1. 3R:Reduce→Reuse→Recycleの順序で推進します。
2. SDGs:持続可能な環境活動を推進します。
3. 労働環境にも配慮し、健康経営を推進します。

上記の基本方針に基づき、以下の環境活動を推進します。

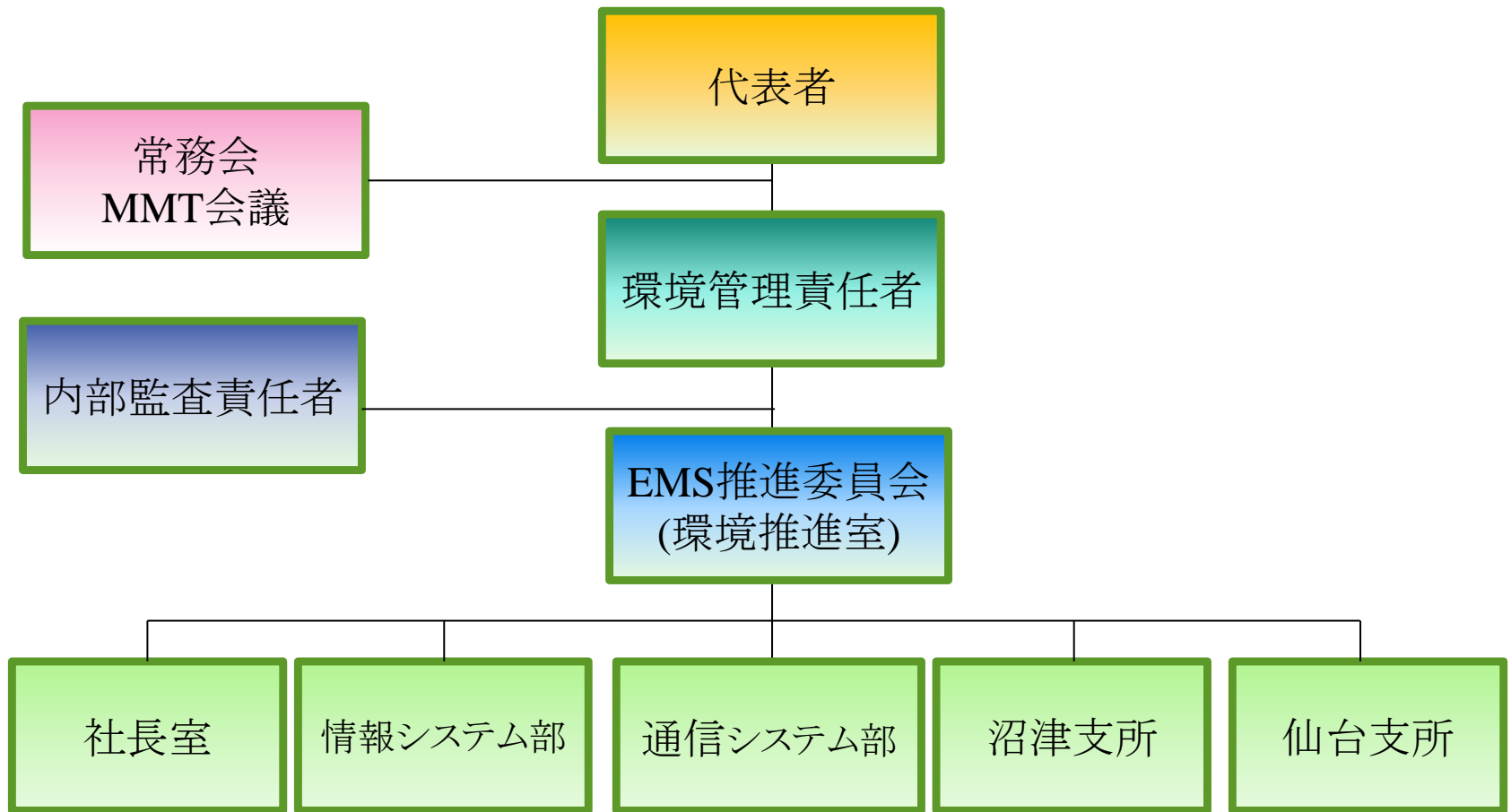
- (1) 事業活動によるCO2排出量、廃棄物排出量、OA用紙使用量の削減に努めます。
※当社事業活動において、化学物質の取り扱いはありません。
- (2) SDGsの考え方を意識した環境教育を推進することにより、社員一人ひとりが持続可能な社会の創り手となることを目指します。
- (3) 業務効率化により、労働環境の改善および顧客満足度向上を目指します。
- (4) 各拠点における環境活動を通して、社会貢献活動を推進します。

本方針は社内および社外へ公表します。

制定日:2008年9月12日

改定日:2019年2月1日

システムニacol株式会社
代表取締役会長 浅見 秀一



環境経営推進体制

環境経営推進体制

代表者	代表取締役会長	浅見 秀一
	代表取締役社長	花園 泰
	常務取締役	臼井 立美
環境管理責任者	環境推進室担当部長	遠藤 幸一



中期目標(2017年4月-2021年3月) ※1	環境施策
電力使用量削減 2013年度実績値の維持	クールビズ,ウォームビズによる空調温度の適正管理。昼休み消灯,未使用機器電源OFF →異常値がないことを継続監視 働き方会議による施策の実施
紙使用量削減 2013年度実績値の維持	電子媒体使用等によるペーパーレスの推進 →異常値がないことを継続監視
可燃ごみ排出量削減 2013年度実績値の維持	ゴミ分別化の徹底 →異常値がないことを継続監視
Decent work(働きがいのある人間らしい仕事)の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化提案件数の向上推進 →基準値(2013年度実績値)の維持向上を継続監視 ・労働環境改善活動

※1 本社フロア変更(2021年4月)による対象期間の変更

環境経営目標と実績-中期目標と施策①

中期目標(2017年4月-2021年3月) ※1	環境施策
環境への取り組みの社外展開推進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する外部セミナー参加 ・環境イベント参加
SDGsを踏まえた環境教育の推進	持続可能な教育方法の検討および運用

※1 本社フロア変更(2021年4月)による対象期間の変更

環境経営目標と実績-中期目標と施策②

活動項目	年度目標	今期の状況	達成状況
電力使用量削減 [kWh]	2013年度実績値維持 26,405.74 ※1	21,197.42	○
CO2排出量 [kg-CO2]	2013年度実績値維持 13,333.30 ※2	10,551.70 ※2	○
紙使用量削減 [枚]	2013年度実績値維持 7,211 ※1	7,743	×
可燃ごみ排出量 削減 [kg]	2013年度実績値維持 69.1 ※1	108.7	×

※1 2013年度実績値

※2 購入電力の排出係数は2015年度実績調整後排出係数
東京電力 排出係数 0.491
東北電力排出係数 0.559

環境経営目標と実績-2020年度①

活動項目	年度目標	今期の状況	達成状況
Decent work (働きがいのある人間らしい仕事)の推進	業務効率化提案件数の向上推進 ⇒2013年度実績値(13件)の維持向上	7件 (開発サポートツール, 改善提案件数)	×
	有給取得率向上および労働環境改善の提案推進	働き方会議による労働時間の管理, 課題の抽出, 対策の検討を継続で実施中。	○

環境経営目標と実績-2020年度②

活動項目	年度目標	今期の状況	達成状況
環境への取り組みの社外展開推進	自治体, 他企業のセミナー, イベント等の社外環境活動の参加	新型コロナウイルスの影響により外部セミナー, 清掃活動等のイベントが中止となり, 実施できなかった。	×
SDGsを踏まえた環境教育の推進	持続可能な環境教育システムの構築および運用	環境教育システムとしての運用までには至っていないが, 各部門の帰社報告会, 社内報の環境関連トピックス, 掲示板によりSDGsに関連する教育を実施中。	○

環境経営目標と実績-2020年度③

◆年度別目標

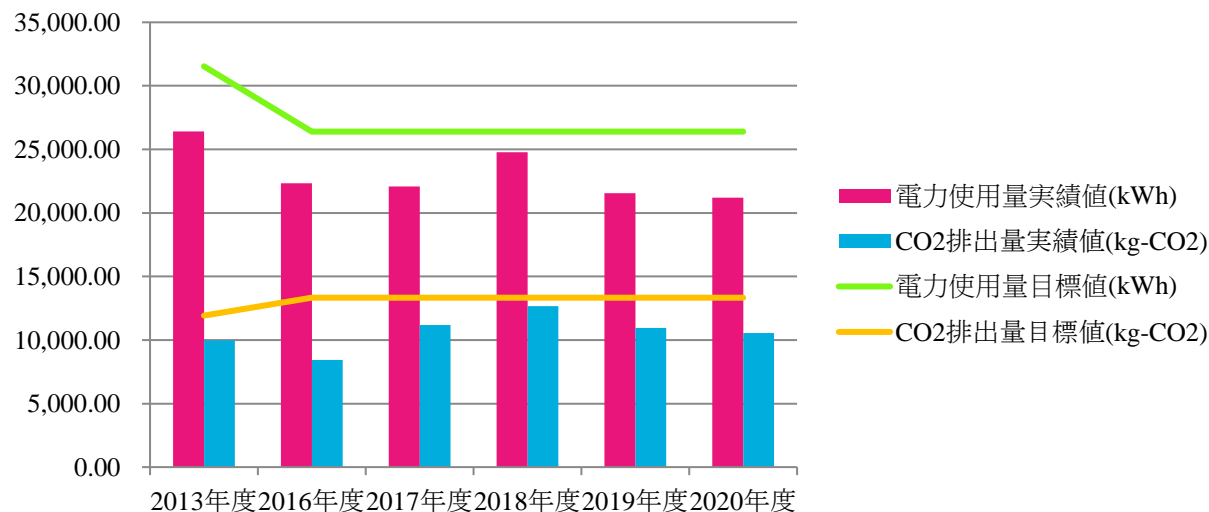
活動項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
電力使用量削減 [kWh]	2013年度実績値の維持(26,405.74)			
CO2排出量 [kg-CO2]	2013年度実績値の維持(13,333,30)			
紙使用量削減 [枚]	2013年度実績値の維持(7,211)			
可燃ごみ排出 量削減 [kg]	2013年度実績値の維持(69.1)			

※ 2017 – 2020年度まで2013年度実績値の維持を目標とし、異常値がないことを監視していく。

環境経営目標と実績-年度別

◆電力使用量の年度別目標と実績

活動項目	2013年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
電力使用量 (kWh)	26,405.74	22,326.72	22,077.48	24,774.61	21,556.68	21,197.42
CO2排出量 (kg-CO2)	9,981.36	8,439.5	11,194.05 ※1	12,676.44 ※1	10,964.65 ※1	10,551.70 ※1

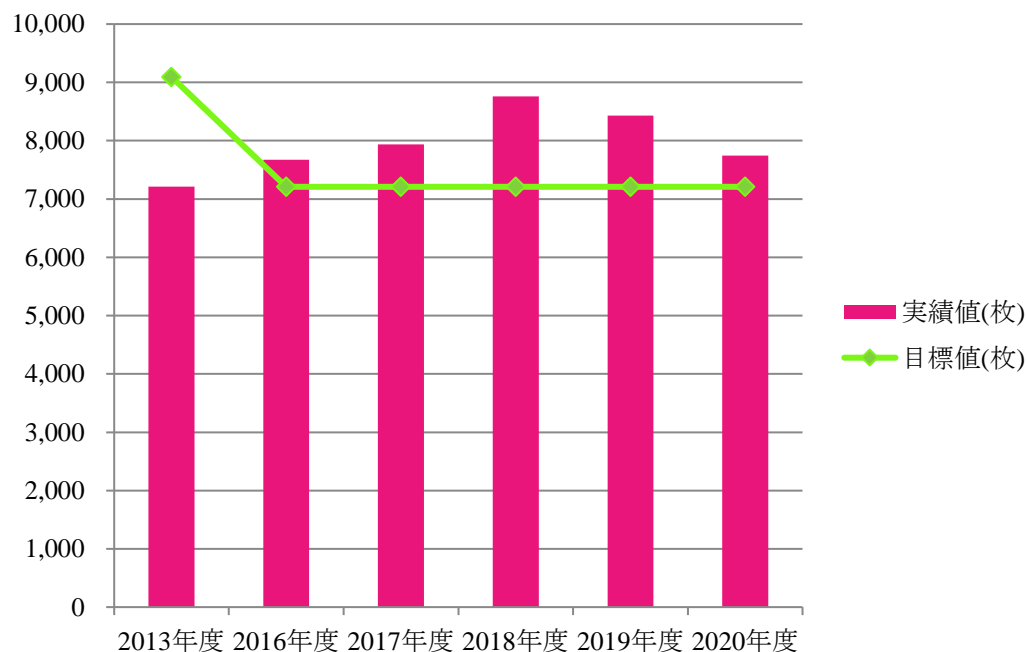


※1 2015年度実績調整後
排出係数に変更のため
東京電力:0.491
東北電力:0.559

環境負荷の状況①

◆紙使用量の年度別目標と実績

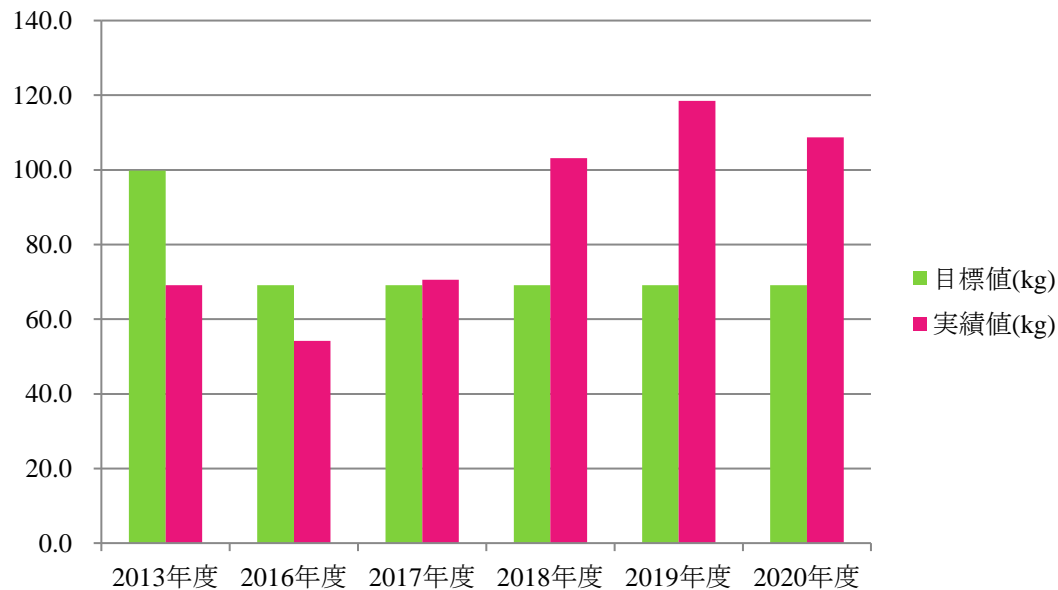
活動項目	2013年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
紙使用量(枚)	7,211	7,674	7,937	8,757	8,430	7,743



環境負荷の状況②

◆可燃ごみ排出量の年度別目標と実績

活動項目	2013年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
可燃ごみ排出量(kg)	69.1	54.2	70.6	103.1	118.5	108.7



環境負荷の状況③

●電力使用量，CO2排出量

新型コロナ感染防止対策の一環から一定時間の換気を実施しており，影響が懸念されたが，問題はない。

●可燃ごみ排出量

テレワークへのシフトによる常駐者の変動やフロアのレイアウト変更による廃棄物処分等の要因により，目標未達成となった。

⇒常駐者変動に対応した測定方法の確立を目指していく。

環境負荷の状況 - 考察①

●紙使用量

常駐者変動により社内セミナー，採用試験，社内作業等での印刷物が増加したため，目標未達成となった。
⇒常駐者変動に対応した測定方法の確立を目指していく。

●水道使用量

水道使用量については，入居ビル管理会社が全フロア一括で処理している為，フロア単位で数値を把握することはできない。したがって，水道使用量については節水への呼びかけを行っている。

環境負荷の状況 -考察②

ワットチェッカーによる
電力測定



はかりによるゴミ計量



環境負荷測定法

項目	評価	次年度の取組
電力使用量削減 CO2排出量削減	目標を上回る削減を達成した。※1	本社フロア変更による目標値および測定方法の見直しを行う。
紙使用量削減	2013年度実績値を下回り、目標達成できなかった。※1	本社フロア変更による目標値および測定方法の見直しを行う。
可燃ごみ排出量削減	2013年度実績値を下回り、目標達成できなかった。※1	本社フロア変更による目標値および測定方法の見直しを行う。

※1 要因については「環境負荷の状況 考察①②」参照

環境取組の評価①

項目	評価	次年度の取組
業務効率化提案件数の向上推進	2013年度実績値を下回り、目標達成できなかった。	本施策を実施しているCS推進室と連携して対応策を検討していく。
有給取得率向上および労働環境改善活動	働き方会議での課題の抽出、労働時間の管理、改善対策の検討を継続で実施中。	各部門および働き方会議による労働環境改善への取り組みを継続で実施していく。
持続可能な環境教育システムの構築および運用	環境教育システムとしての運用までには至っていないが、各部門の帰社報告会、社内報の環境関連トピックス、掲示板によりSDGsに関連する教育を実施中。	SDGs関連の教育の継続実施および効率的な教育方法の検討

環境取組の評価②

項目	評価	次年度の取組
環境への取り組みの社外展開推進	新型コロナウイルスの影響により外部セミナー、清掃活動等のイベントが中止となり、実施できなかった。	オンラインセミナー参加等、実施可能な施策に取り組んでいく。

当社では技術教育に加え、定期的に環境関連の情報を社員向けに発信したり、各部門それぞれで定期的に環境活動の周知、教育の場を設け、啓発活動を実施している。

環境取組の評価③

◆環境関連法規への違反，訴訟の有無

環境関連法規の違反・訴訟等は過去および現在において1件もない。また，当社に対する関係機関及び近隣からの指摘・苦情もない。

※環境上の緊急事態に対する対応については，自然災害，火災のみ想定している。

環境関連法規-違反・訴訟の有無

関連法令・条例・規則・顧客	適用対象
循環型社会形成推進基本法	全社
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	全社
資源の有効な利用の促進に関する法律 (PCリサイクル法)	全社
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	全社
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する 法律(小型家電リサイクル法)	全社
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等 に関する条例	本社

環境関連法規一覽①

その他環境関連の要求事項	適用対象
入居ビル管理, 富士通沼津工場の要求事項(ゴミ分別, 避難訓練)	全社

環境関連法規一覧②

ゴミの分別はきっちりと！募金活動も実施中！



環境活動の紹介-分別

従来からの環境問題への取り組み(自社業務及び提供するサービス等において発生する環境負荷の低減等を目指す)が継続して行なわれていることを確認した。

しかし、コロナの影響により目まぐるしく変動する業務形態(テレワークや在宅ワーク等)に対して、現行の取り組みやそれらに対する評価が、必ずしも妥当ではない点も見受けられた。

次年度においては「経営における課題とチャンス」を見直し、変動する様々な様式の中で、より有効な環境への取り組みが行われることを期待する。

代表者による評価と見直し

フェーズ
1

- ・ 2004年より弊社独自の環境活動（クールビズ等）を開始

フェーズ
2

- ・ 2005年よりお取引先から第2者認証を取得

フェーズ
3

- ・ 2006年6月，エコアクション21の認証を取得（第3認証）

フェーズ
4

- ・ 2015年4月～ フェーズ3までの削減効果の維持および社外の働きかけ等スコープ拡大

フェーズ
5

- ・ 2016年4月より「働き方改革」を含む労働環境改善へと取り組みを拡大

フェーズ
5+

- ・ 2019年1月よりSDGsを意識した取り組み等スコープ拡大

2021年度～2023年度の中期目標

通番	中期目標
1	環境負荷(電力使用量・CO2排出量, OA用紙使用量, 可燃ごみ排出量)の2021年度実績値の維持向上
2	新しい生活様式での作業効率化の推進
3	SDGsを意識した環境教育の具体化
4	新しい生活様式を踏まえた啓発活動の推進

2021年度の年度目標

通番	中期目標	環境経営目標
1	環境負荷(電力使用量・CO2排出量, OA用紙使用量, 可燃ごみ排出量)の2021年度実績値の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎数値(2021年度実績値)の収集 ・常駐人数変動を考慮した基礎数値算出方法の検討
2	新しい生活様式での作業効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化提案件数の向上推進 ・テレワーク下での作業効率化の推進
3	SDGsを意識した環境教育の具体化	<ul style="list-style-type: none"> ・新人研修、一般研修でのSDGs教育の体系化
4	新しい生活様式を踏まえた啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・社内報、メール、社内掲示板を通じた啓発活動の推進

- システムニコル(株)
- <https://www.nicol.co.jp>

END